京城日報

二月七日夕刊
（朝夕刊併せて八頁）

第四十回帝國議會（東京特電）

衆議院（六日）

▲増税委員會

所得税法中改正法律案外十一件委員即ち増税に關する特別委員會は六日午後二時衆議院豫算委員室にて開會、本期議會中最も主要なる決定を見んとする事とて後藤内相勝田藏相以下各政府委員及び各派委員全部出席せり

▽床次竹二郎氏（政友）本員等は我々の意見を決定する前に先づ政府の決意を聞かんと欲す政府は過日の本會議にて必ずしも現案を固執するものに非ずと云へり國防の充實及び税制の整理を目的とせる政府は本案を提出するに當り國防の充實は之れを缺ぐ可からざるを認め之れが財源として所得税及び酒造税の増徴は承認し他は之れを否認せんとす尤も戰時利得税は臨時軍事費の財源なれば之れを認む可し但し税制整理は全部否認せんとするが政府は之れに同意せんとするや如何

▽勝田藏相　政府が本豫算を提出するに就ては國防充實を主眼とせるものなるが其の目的を遂行する爲め増收計畫を提出せり而して増收は直接税にありては所得税間接税にありては酒造税の増徴を主とせるものにて他の法案は税制整理の目的を以て之れと同時に提出せる次第なり故に國防計畫の遂行に關し所得税酒造税の増收を是認せらるゝは政府の滿足する所にして殊に其の税制整理は主義に於て否認せず但し實行を延期せらるゝに於ては政府は敢て本案を固執せんとするものに非ず又通信收入に就ても既に税制整理を延期するに決したる以上其の歳入も復活さるゝものなれば經理上相當の補充も出來得可ければ之れ又敢て固執せずと述べ次で

▽武藤金吉氏（政友）は戰時利得税の在外人に關する課税に就き質し勝田藏相は賦課の重複する事無きを信ずる旨を答へ後、床次竹二郎氏（政友）政府は原案を固執せずと言明せるが我々の主張に同意するものなりと解して可なりや、勝田藏相　床次君の見解の通りなり、早速整爾氏（憲政）政府は床次君の質問に對し同意すると言明せり然らば速に歩を進めて撤回するの意志無きや

勝田藏相　撤回するの意志無し

早速氏は更に床次君等の主旨は既に本案の主旨を破壊せられたるが故に須く撤回するを適當なりと信ず茲に敢て希望的質問を爲すものなり、勝田藏相　本案は目下審議中なり故に政府に於て之れを撤回するの意志無し、右問答終りて戰時利得税の討議に移り

▽三土忠造氏（政友）政府の戰時利得税收入見積りは三千萬圓と云ふも各方面にて調査せる結果は七千萬圓以上に達すとの事なり即ち歳入上必要ならざるのみならず財界に惡影響を及ぼす事となる可し若し其の場合には政府は本案の改正を爲す意志なるや

▽勝田藏相　政府の見積りは比較的正確なりと信ず若し見積り額以上の收入ありたる場合は法律にて相當の考慮を爲すつもりなり斯くて質問を打切り討論に移り

▲税案討論

▽加藤政之助氏（憲政）戰時利得税法第六條の所得を利得と爲したし又た本法は内地と植民地との均衡を得しむる爲本法を植民地に施行するの附帶條件にて全部本案に賛成す可しと賛成説を述べ三土忠造氏（政友）又同樣の修正を爲し且つ同樣の希望條件を提出したる後其希望條件を實行するや政府の言明を得度しと賛成説を述ぶ

▽勝田藏相　政府は最初植民地には施行せざるつもりなりしが之れを施行する樣相當の措置を執る可し又其の收入を植民地に用ひ一般會計の臨時事件費の財源とす可しと云ふ事も政府が既に植民地に施行する事を略承認したる以上は敢て反對に非ず只其實行に關しては考慮す可き點あれば愼重考慮の上決定す可し

戰時利得税は三土、加藤兩氏の修正希望條件通り全會一致可決せり次で酒造税外一案の討議に移り三土忠造氏（政友）酒造税法改正案第四條第一項は現行法通りに修正し第十九條末項に關し希望條件を提出し［illegible］加藤政之助氏（憲政）［illegible］の否認説ありしも採決の結果三土氏の修正通り可決せり其れより全部を議題に供し

▽三土忠造氏（政友）政府は國防計畫遂行の爲め増税を爲すものなるが如きも所得税酒造税の増徴に依り其の財源を補ひ得可し故に右兩税の増徴以外は之れを認むる事能はず其れと同時に廢減税を爲すに就ては其の内容の如何を問はず［illegible］

▽三土忠造氏（政友）政府は國防計畫遂行の爲め増税を爲すものなるが如きも所得税酒造税の増徴を爲すは［illegible］

▲利得税と植民地

衆議院豫算第三分科會は六日午後［illegible］

政友憲政兩派の起立にて全部否認の事となり斯くて全部を議了し午後三時二十分散會せり

◉大邱光州線否認

七日朝刊所載議會電報『事業公債委員會』の記事中一大邱光州間建設云々とあるは電文の誤にして七年度豫算に計上されたるは既定繼續豫算中七年度年割額八百廿五萬圓に百七十五萬圓を追加したる一千萬圓にして爾後六箇年間は毎年一千萬圓宛最後の年割額は一千百萬圓とし即ち八年繼續事業として七千百萬圓を計上されたるものにして事業の内容は咸鏡線未興、輸城間二百八十三哩、鎭南浦昌原間十三哩、寺洞炭礦線延長八哩等の建設工事、京釜線大邱淸道間、芙江天安間、草梁釜山鎭附近、京義線京城附近、兼二浦線の改修工事等にして大邱光州間新線建設の計畫は全然之れ無き旨當局に於て否認されたるに由り訂正す

▽山縣政務總監

朝鮮には四十四年發布の教育令の施行ありて大體に於ては國語の普及を基礎として普通教育實業教育專門教育を爲し居れり普通教育は國語の教育を主とし内地の小學校に當るものと中學校に當るものとあり牧山耕藏氏は更に朝鮮總督府は財政獨立計畫に基き植民地負擔力の點より論せず唯植民政治の大局の効果より見て增税の影響に就き考慮すと述べ

▽山縣政務總監　財政獨立の計畫をなしたるは當時母國財政の都合上度々事業を繰延べらるゝことありし爲め朝鮮開發の事業の完成を遲からしめたる爲に其の不得策なるが故に財政の獨立を計り母國の財政的援助を俟たずして此の結果多少の負擔を増して事業を完成せんと計りたるものにして［illegible］

木梅四郎氏（國民）朝鮮教育の實況如何

▽山縣政務總監

［illegible］

▽山縣政務總監

大體より之れに關する當局の方針如何して朝鮮人民を母國に悦服せしむる答へ小川鄉太郎氏（新政）如何にすれば自ら止むを得ざる處なり

▽山縣政務總監

朝鮮特有の事情に適合する政治を爲すには［illegible］の機密費は必要なり予は今後多くの機密費を必要とするを想像するものなり（下略）

◉東拓對抗の意味もあらん

阿部秀太郎氏談

滿洲貨幣市場を混亂せしめたる

［illegible］

▲東三省官銀號

放出の濫發と銀行の大阪［illegible］

▲奉天省當局

は右兩種の不換紙幣を城下たる奉天に多額を放出する事は日本人の集團多く加ふるに日本官憲も有力なるに付き遠慮して地方に多くの發行をなせし模樣あり開原の鐵嶺公主嶺長春等の集散の中心市場に付兩不換紙幣の影響を第一に受けしものならんと想はる右に付日本側より奉天省に向ひ兩不換紙幣の發行停止並に回收及び兌換大小洋票の發行要求に對しては省當局より『現在發行せる洋票並に利附債券は百萬圓にて今後發行は差控ふべし』との回答を得たる旨六日の夜奉天支店より電報到著したり唯果して其の回答の如くなるや否は今後の事實に徴する外なき實行には

▲頗る困難

あるべし尚ほ奉

▲四分利付債券

を發行せしめつゝあるは近時東洋拓殖會社が滿洲に進出し不動産抵當の長期低利放資をなすに至りしを以てそれに對抗する意圖より無期限の四分利債券を發行せしものなるべしとの觀測あり或は然らん何んとなれば四分利附の債券なれば發行手數料其他の出費を除くも支那として割安の資金を供給し得るを以てなりそれに見るも今後奉天省の貨幣市場が如何に變轉推移し行くかは深甚の注意を要す

◉朝鮮貿易

一月中の合計一千九百十五萬四千餘圓［稀有の盛況

一月中の朝鮮貿易は輸移出品價九百七十五萬二千餘圓輸移入品價九百四十萬二千餘圓合計千九百十五萬四千餘圓にして差引三十四萬九千餘圓の輸移出超過を示し之を前年同期に比較するときは輸移出三百六十三萬六千餘圓輸移入四百七十二萬八千餘圓合計八百三十六萬五千餘圓を各増進し出入共

▲稀有の盛況

を呈せり次に出入貿易の内容に就き前年同月に比較觀察するに輸移出にありては大宗たる米は内地相場の好調、朝鮮の輸出運賃の値下等より移出超過の前年同月に比するときは何三百六十萬［illegible］

▲棉花は作情

［illegible］

▲柑場漸騰の

趨勢を現せ［illegible］

▲其他石油に

［illegible］十萬九千餘圓を増加し

◉客月京城貿易

京城稅關出張所の調査に係る一月中の京城通關貿易狀況を聞くに輸移出品價合計十九萬五千七百七十四圓にして其の主なるものは煙草の五萬五千餘圓、牛皮の四萬五千餘圓、大豆の一萬六千餘圓

◉司令官總督

訪問　松川軍司令官は野津副官を隨へ七日午前十時卅分總督府に長谷川總督を訪問し約時間の會談の上辭去せり

◉總銀第三回拂込

朝鮮殖產銀行の第三回拂込は一月三十日より二月四日迄拂込期限なりしが拂込みたるものは二百二十六萬圓にして［illegible］の終了を告げたるは未だ明なるべし

◉咸北牛狀況

［illegible］

◉鮮銀總裁東上

鮮銀總裁美濃部俊吉氏は倉知秘書役を隨へ來る十八日の株主總會［illegible］

◉立花中將張宴

立花第十九師團長は豫報の如く六日午後六時半より花月に張宴し西海參謀長、稻田大佐竹内山本兩中佐並に各新聞通信雜誌社長記者等を招待せし主人側より挨拶阿部本社社長の謝辭あり將軍の侍者も岡本參謀長以下司令部員も接待に努め盛會裡に十時散會せり

◉鐵道青年大會

朝鮮鐵道青年會にては來る十一日紀元節の佳辰を卜し午後二時より龍山同會館に於て例年の通大會を開催する由なるが丹羽理事の開會の辭久保局長及び川上工務課長の講演あるべく尚ほ午後四時より餘興として活動寫眞其他三曲合奏等あり更に午後六時より鐵道俱樂部に於て餘興し食堂及び同家族の觀覽に供すと

◉對馬丸引返す

七日朝釜山港より出帆の對馬丸は海上風波の爲め航行の途中より引返したるが風颱の次第［illegible］

◉大田理事入京

大連の大田鮮銀理事は大連の事務打合せの爲め入京す

◉川上東拓理事

［illegible］

◉末永浩護士

［illegible］

東京より

（東京一記者）

豫算修正と各黨態度

○政府が今期議會に提出したる豫算には所謂國防充實の計畫を實現する目的に存す其の充實の目的を達する方法手段にして他の歳入財源に關する提案は國防を增税の計畫に依りて充實するに在り之を否認する所謂第二の落に陷するを以て國防充實は其の目的の計畫を全く取捨選擇は宜しく輿論の趨く所を察して之を決せざる可からず。此際政府が其の原案を固執して議會と衝突する如きは之を避けざる可からず。

○政友會を首とし各政黨の主張各相同じからずと雖も國防計畫の已む可からざるを認むるに於て殆んど一致するは［illegible］

［illegible］

◆問題の匯兌券と四分利附債券◆

[illegible]奉天省の匯兌券は此の[illegible]東三省官銀號の匯兌券[illegible]四分利附債券は[illegible]の通りである

貨幣流通の由來ぬ不換紙幣の濫行により日本人の兌換信用[illegible]して匯兌券には北京天津上海にて元銀に引換ふるとあるも[illegible]又四分利附債券は裏面に[illegible]

日本縱斷大飛行
帝國飛行協會大計畫

帝國飛行協會にては今春四月初旬より四國九州各都市に於て巡回大飛行を催すべきに附此機會を利用して協會多年の宿望なる[illegible]

◆所澤九州間 約八百哩に亙る日本縱斷大飛行を行ふべく目下計畫中なり今回協會に於て立案せる大體方針を聞くに全距離を三區に分ち第一區は所澤大阪間とし箱根の嶮を超え豊橋より拓植、奈良を經べく第二區は大阪高松間とし神戸、姫路、岡山を經て兒島半島を横斷し第三區は松山小倉間とし廣島より下ノ關に入り馬關海峽を横斷すべく右三區は何れも

◆三百哩以上 の長程に亙り而して使用の機は協會所屬「四年型モ式第六號」(ルノー七十馬力)にして約七時間分の揮發油八罐を收容すべきタンク並二個に器械油卅基瓦を搭載すべき装置をなし其操縦の任に當るべき後藤正雄、佐藤要藏兩氏は目下所澤試驗場に於て著々準備中なり此壯擧にして成功の曉は實に

◆我が航空界 に長距離のレコードを示すべく大いに誇るに足らんが實際に開始する場合に全部其計畫通りに遂行せん事却[illegible]

◆開始する事 となるべく月中旬より[illegible]右大飛行終了の後は四國の徳島、高知等土佐半島を巡回し更に福岡、佐賀、久留米、鹿兒島等九州一圓に亘り約二箇月間の巡回飛行をなすべし(東京)

山火事 頻々
國有山林の被害夥し

昨今は例年各地に山火事の多き季節なるが江原道江陵郡連谷面は昨年十二月以來一月十七日までに

◆三回の 山火事あり一月十七日の分は同面三山里鶴洞嶺登山より同日午後一時發火し國有林及び山野の雜草雜樹三百町歩を燒失して翌々十九日午後三時鎮火したるが原因は不明なるも樵夫又は通行人の煙草の吹殻乃至焚火より發火せしもの、如く此の外十二月二十日の分は同面柳等里及び卅泉里にて午後六時より發火し翌二十一日午後六時鎮火したるが此の山火事は同地の朴太感なる者が

◆焚火を なして其の跡を十分に消さゞりし爲にて一月十日の分は夕方五時同面三山里後峙山より發火し國有林三十町歩を燒きて四日間に亘り附近の山野に延燒し同十四日夕方六時鎮火したるが原因は不明なるも三山里の山火事と同一原因ならんといふ(鐵原警察署着)

密陽の大火

六日午後九時五十分京釜線密陽驛前門外に出火あり內地人家屋十戸朝鮮人家屋四十戸燒失せり損害約一萬一千圓人畜の死傷なく原因取調中(七日密陽警察署着電)

總て科學の力を
▽應用する佛國の戰時郵便

[illegible]佛國は開戰當初に於て郵便事務の[illegible]を行ひその結果は郵便事務に[illegible]無き

◇老人や年少の者を以てしてゐる有様で、從て其成績は戰前より遙かに劣つてゐる、現在巴里の如きは三百萬の人口を有する[illegible]郵便物の取扱數は六回で、配達數は八回[illegible]人口二百萬の我が東京市の取集數[illegible]

◇八重機まで に進んでゐる、また電話には半自働交換機を備へて人手を省くなどその機械力を應用することは實に驚くばかりで追々日本でも之等の設備を見たいと思つてゐる、また巴里で七萬本の電話線の中二萬五千本は軍用線に使用し僅に四萬五千本のみを三百萬の市民が使用してゐるが二百萬の東京市民の有する

◇約五萬本の 電話よりは[illegible]

[illegible]ことを怠らず、信書や郵便物の如きは精巧なる電力消印機を用ゐて一時間に約五萬枚を見事に處理する、尚電信なども日本では一本の線で四本分の働きをする四重機を備付けてゐる向ふでは

◇氣送管に依 つて[illegible]

◎横領事件判決 加藤一郎[illegible]

巨虎二名の樵夫を傷く

平南江東郡晶湖面石泉里樵夫趙基洙(四〇)は去る二十三日午後三時[illegible]被告加藤一郎を業務横領罪として懲役一年に處し三年間刑の執行を猶豫す

▲爛々たる眼 を光らし一頭の巨虎が[illegible]突然基洙に飛び付き[illegible]七箇所に爪を引かけ恰かも猫が鼠に戲れる如くに戲れたるが其時附近にて此れも同じく樵草刈りに來れる同面居住の[illegible]者が怪しき聲を聞きつけ聲を瞭りに來て見れば此の有様なるより直ちに鎌を揮ひて大虎に飛付き基洙を救はんとせしも今度は反つて虎は龍俊に向き直ほし

▲牙を鳴らし て基洙同樣に頭部を咬傷し兩名[illegible]

讀者文藝

(一等…の書籍券を呈す)

▲謎 時計とかけて
○稗を解く 其の心は正直[illegible]

[illegible]

元山驛に明太魚の山
漁場の賑ひ

[illegible]

◎馬養島附近の 漁場には漁船の集來夥しく水揚高の多いものは漁期三箇月間に千五百圓以上に達し[illegible]

◎何れも仲買船[illegible]元山に運搬されるのである[illegible]

多く漁船集合地たる成興郡退潮浦、洪原郡、三湖、前津、北青郡陸岱、新浦、馬養島、新昌、利源郡遮湖等は活氣に乏しく例年の殷盛を見る事が出來なかつた、漁撈は十一月下旬から開始されて十二月中が最も盛んであつたが此の時季には西湖津沖合から利源郡遮湖沖合に[illegible]

筆を執つて紙に
▽向ひます時と心の中の蟠りも塵も芥も洗ひ流して純粋な心地よい氣分になります
司法部長官國分三亥氏夫人のおはなし

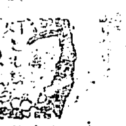
「私が書を描きますって、之ばかりはほんとうに内證でやつて居りましたのに、そんな事を發表されましては全く困りますよ、私は幼い時から書は好きでございまして十六の年に京都で當時名高い中林清淵伯のお嬢さんで[illegible]に就きまして三年ばかり稽古致しましたがそれからは子供が居りましたりして家庭の事に拘つて中絶して居りましたが何時迄もと思ひまして先年海岡金圭鎮先生の所へ通ふ事にいたしましたそれも毎日は參れませんからよろしうございますが一週に一二回もともすれば怠け勝ちでございまして紙に向ひますと心の中の[illegible]を隔つて一分の隙もない『書の方も少しいたして居りますが筆を執つて居る[illegible]

[illegible]子供は五人ございます[illegible]

[illegible]

◎漁業資金に乏し

[illegible]



▲旭町の火事に[illegible]

大仕掛の詐欺

慶尚南道蔚山府草梁町生れ住所不定姜鳳吉[illegible]は光州地方法院金堤出張所の使用に係る官印四個を僞造し[illegible]より多額の金錢を騙取せんとし[illegible]

◎籾を盜む 原籍不詳目下住所不定[illegible]手始めに各所にて多額の籾を盜み[illegible]

□讀者文藝課題及び募集規定

□募集規程 ▲用紙は端書又は同形の用紙一枚毎に雅號又は匿名の外に住所氏名明記の事▲一等[illegible]

商況

東京期米特電

兵庫期米

大阪三品特電

大阪株式特電

大阪期米特電

下關期米

雜穀

◎絹糸小高し

各期二三圓乃至五圓方引返現物又二圓高

綿布[illegible]

◎製粉底強し

下落は望[illegible]

聊かダレ氣味

市況甚だ混沌

◎鑛力益々軟弱

多量の入荷確實

罐詰は中止

京城正米

下關相場

◎毛皮類好調

徐々上向

內地好氣配

◎罐詰品人氣

獺皮[illegible]

七十五圓處迄 下落す

◎索麵大第高

五圓六七十錢

◎大麥系の逆送

氣配惡く

一圓以上暴騰

南大門相場

仁川正米

仁川期米

七日前場(強硬)

先二十一圓十九錢

仲 二十一圓

大阪天候 晴天

五錢

仲買店

仁川取引所

市場雜觀

賣物多く下步調

二十八錢

北濱たより

郵船と商船

青物小賣相場

天氣

晴一時曇

奉天の南滿醫學堂(三)

◇愉快なる學堂寄宿舍の生活
◇冬は氷滑りに夏はテニス野球

但し滿鐵が教授連を優遇すると共には努めて居るといふ評判で現に外國に留學させた人若しくはさせつゝある人は十五人以上に上つてゐるから一面

◇博士になる◇ には此所がよいとの噂もある、現に留學して歸つた人には解剖の鶴野博士の如き生理學の久野博士の如き醫化學の岩野教授の如き内科學の河西教授の如き滿鐵衛生課長の[illegible]の如き、外科の尾見博士の如き皮膚科の小兒科の稻葉博士の如き眼科の小口博士の如き[illegible]教授の如き産科婦人科の[illegible]教授の如き[illegible]の序に林教授の如き生細菌の豊田教授の如きみな

◇洋行歸りの◇ 錚々たる人々で其の他目下留學中の人には一昨年の夏瑞西に往つた學長の山田教授の如き米國へ留學中の藥學專攻の久保田教授の如き産科婦人科の上野教授の如き動植物學の西村教授(米國)の如きがある、それば新進の學者を有することに於ては到底內地の專門學校の及ばぬところで近來日本に於ても醫學堂の眞價を認められて來たとは大に滿洲人の意を強うするに足ることだと思ふ、それかあらぬか近來入學志願者の中には特に內地を措いて

◇遙々滿洲に◇ 出かける者が著しく昨年の申込者も收容人員三十名の八倍二百四十名に達して居る、それに醫學堂の誇りは標本の完備したまでであらう、人體の骨格と云ひ病理、解剖の標本といひ內地よりも遙かに多く備へられてある、殊に人體の解剖などは內地などに行はれぬ程の解剖が試みられる、また此所の卒業生は南滿

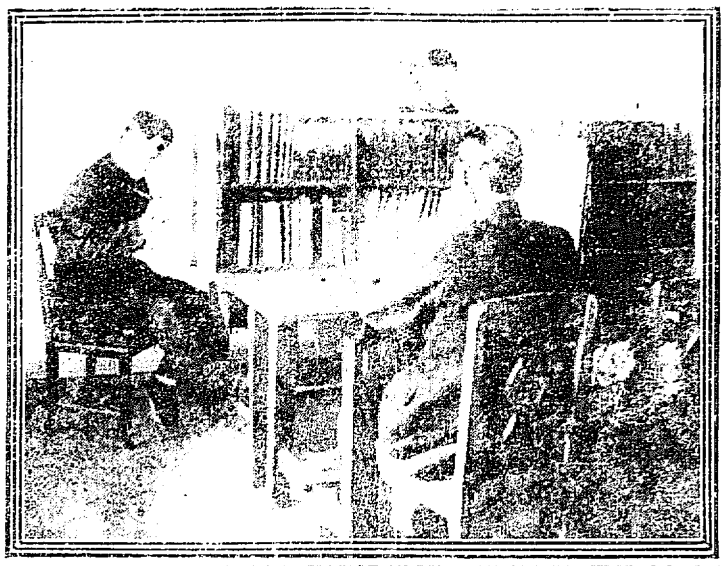
◇醫學堂醫學士◇ の稱號を認許され內地の醫學專門學校同等の資格を有つ從來卒業した者は多く滿鐵に勤むし中には內地へ歸つた者もある、第一回の卒業生は大正四年九月に出た、今春は第四回の卒業生が出る筈、學科は支那語を一つ勉强せなければならぬ……此點は確かに內地と少々趣きを異にしてゐる、つ南滿醫學堂には堂々たる寄宿舍の設けがあり而して學生は日本人も支那人も共に此の裡に入らねばならぬ

◇寄宿舍の裡 は蒸汽暖房の設備もあり防寒の用意は遺憾なく備はつてゐる、階下は主に自修室や娛樂室、會議室等に宛てられ階上は各自の寢室となつてゐる、それに徹宵勉强する人の爲めには特に階上に一室が設けられ[illegible]あれば圍碁、將棋、ピンポン、[illegible]フートボール、音樂等あらゆる娛樂機關が備はつてゐる、それにまた圖書室もあれば新聞閱覽室の設けもある、日曜日は休日

◇午前七時に◇ 起床して食事時間には大きな食堂で一同打揃つて食事をとる、滿洲の冬の寒い[illegible]ところで部屋の裡はきた[illegible]係のやう、內地人が想像する程の不自由は毫もない、それに庭前廣き風を衝いて氷滑りの運動も能きれば夏はまた野球、テニスに遊ぶもよい、尤も醫學堂の校風とか寄宿舍の風紀とかいふ問題はあまり內地程にやかましく言はれて居ないやうである、學校は

◇學生を紳士◇ として待遇し學生はまた紳士として自重して居るものゝやうである、學校が學生を單にお醫者さんとして養成して居るかまたは人格をつくるといふ方に努力してゐるかは自分はまだ知らぬ、但し學生諸君が兩者兼ね備へたならば何よりも結構なことであらう……理窟はさて措き學生間には輔仁會といふがあつて、體育部もあれば文藝部もある、殊に

◇柔道の道場 たる建武館は最も盛んで有段の猛者も尠くない、寄宿料は一箇月一圓、食費は七圓五十錢其の他小使費を合せて一箇月十七八圓もあれば足る、しかし中には一箇月十三圓內外で濟ましてゐる奇特家もあるといふ、[illegible]に日本內地に於ける專門學校の[illegible]



◇奉天南滿醫學堂の本科寄宿舍(一室に四人共棲)隔てゝ向ひ合ひに腰掛ける)

燐寸軸木製造

[illegible]はありたるを實現するなく年を經たるが昨年朝鮮燐寸會社の創立するや新義州に於て該計畫の下に工場を進めつゝありし小山工場を買收し軸木製造の步武を進めたる結果小山氏は則ち地を安東に得て新義州にて[illegible]たる所を安東に得て[illegible]事大に進み本年四月解氷期を以て製造開始の[illegible]近來日本燐寸の[illegible]勢を以て[illegible]き[illegible]

安東と實業公司

奉天庵谷忱氏等の發企になる東洋拓殖會社を中心とせる實業公司は數日前庵谷氏安東を訪問し有志十餘名と會見し其の目的事業計畫及び創立に關する諸般の協議を試みたるに有志の賛成を得て株式振當に對する商議を說明し[illegible]良好にて振當豫定株數一千にては不足なれば是非其の二千株を振當てられたき希望を述べたる結果氏も其の意を諒とし何とか都合すべく決定し奉天に引返せり今其の內容を聞くに該公司は一は資本金二百萬圓其の四分の一は東拓より出資し殘餘を內地朝鮮大連安東奉天長春其の他滿洲各地へ割當て四分の一即ち七十五萬圓の拂込みを以て營業を開始すべく其の事業は不動產擔保貸付、委託調査、仲介、信託及び倉庫業等

苗圃種子

[illegible]

迎日水利組合

[illegible]

大邱生産製造數

[illegible]

近海漁撈傳習

總督府技手遠山氏は多期漁場の採檢擴張と漁具擴成及び改良傳習の目的を以て試驗船千鳥丸に乘組み全北[illegible]

妓生學校

[illegible]今は音樂講習所の近況

不振名物の妓生學校はこれまで數々の秋本田府[illegible]の藝に敎たものであつたが校名を平壤音樂講習所と改稱し從來の朝鮮町に二人の先生が鼎立して居つたのを合併し大同門附近に校舍を新築し[illegible]朝鮮銀行の裏に校門いかめしく舊式兩班屋敷[illegible]目下校運次第に隆盛に赴き生徒の數ザツト百二十餘名三日の午後一時頃訪問したときは土曜日なりとて將に生徒の一群七色の人形打ちあけた如く自宅に歸らんとするときであつた

記者が訪問したので一曲だけ見て[illegible]が折角來たから[illegible]つてくれと云ふので[illegible]中に入つた[illegible]下方には[illegible]代る代る室の中央に立ちて[illegible]淺なる舞踊を前に[illegible]優婉百合の花の如き[illegible]してくれた

山來妓生學校の先生と云ふのは妓生の上りで云はゞ內地の藝妓を止めた女が舞踊の師匠を渡世にして居るものなれば放縱な習慣は何年たちても直らず長煙管を啣へて

(平壤妓生學校の[illegible])

[illegible]で踊を敎へたものだが今は講習所の開始以來[illegible]合の姿で鍊うて居る[illegible]て禮を見せ親切に教へ[illegible]して居る[illegible]に增わて近頃では百五十名餘[illegible]生徒がゐる生徒の出身地は平壤及び其附近は勿論なるも黃海道より來てゐるものも大分にゐる

近頃では良家の子女も入學して來る教科目も歌と踊の外國語習字[illegible]讀書漢文裁縫等で教授時間も敎授方法も現代式に進んで來た何と云つても平壤名物の學校只惜しいことには成績優等容貌美なるものは直に京城に引張られて往くことだと朴先生は語つてゐた(平壤)

▲廣　告▼

商業登記公告
[illegible]

京城地方法院
商業登記
[illegible]

京城地方法院開城支廳

公告
京城府
[illegible]

競賣公告
京城憲兵隊
[illegible]

被服類拂下公告
京城學校組合
[illegible]

賣拂　龍山陸軍倉庫
[illegible]

恩給年金立替
[illegible]

開業
[illegible]

急告
一般讀者の御待遇に就て
今般朝鮮印刷會社の非常に急劇なる設立により京城日報社は印刷を新設せしに付き爲めに種々取扱上印刷上の不行屆なる點あり候事と存じ候が今後は此等の遺憾なき樣注意を拂ひ候に付き相變らず御愛顧を蒙り度く候也

京城太平通壹丁目
京城日報代理部
電話六六〇番、三二六番
振替口座京城三〇番

朝鮮行貨物特約運送開始御披露
拜啓　愈々御清榮奉賀候每々格別の御愛顧を蒙り難有厚く御禮申上候弊社儀從來鮮滿各地輸入並に滿洲行貨物取扱致居り候處今般鐵道院より朝鮮行貨物特約運賃の承認を得朝鮮行貨物の取扱を二月一日より開始致候に就ては之が特技と經驗を有する從業員並に仲仕を增備し最も著實なる運送を實行すべく奮勉努力機宜に適したる御理想の御取扱可仕候間何卒後援的御同情を以て續々御出荷被成下度此段御披露旁々御願迄如斯御座候
大正七年二月一日
大阪驛前
株式會社　富島組鐵道部
電話北[illegible]
通關係電話長土佐堀七六[illegible]
追て不日社員御地に出張何平と運輸上の御協議御願申上べく候へ共不取敢紙上を以て御挨拶申上候

七日本政府
登錄商標
"PINE"
萬年筆の眞價は
パインを除き他に知るべからず
愈々書き具合
能しこの定評を得たる
パイン萬年筆
[illegible]
發賣元　京城太平通一丁目　振替京城三〇〇番　京城日報社代理部　電話三二六　六六〇　構內一八番

朝鮮學術研究會編
朝鮮　中學校　商業學校　高等女學校　高等普通學校
入學試驗問題答案集
學生諸君……御待兼の入學試驗問題
賣切れぬ内に……買ふて入學の榮を得られん事を
四六版　二百餘頁　定價金五拾錢　送料四錢
發行所　京城本町二丁目　ウツボヤ書籍店　電話二五二・二三七
朝鮮漢方醫學及藥物鑛法　[illegible]
朝鮮漢方藥科植物調查書　[illegible]

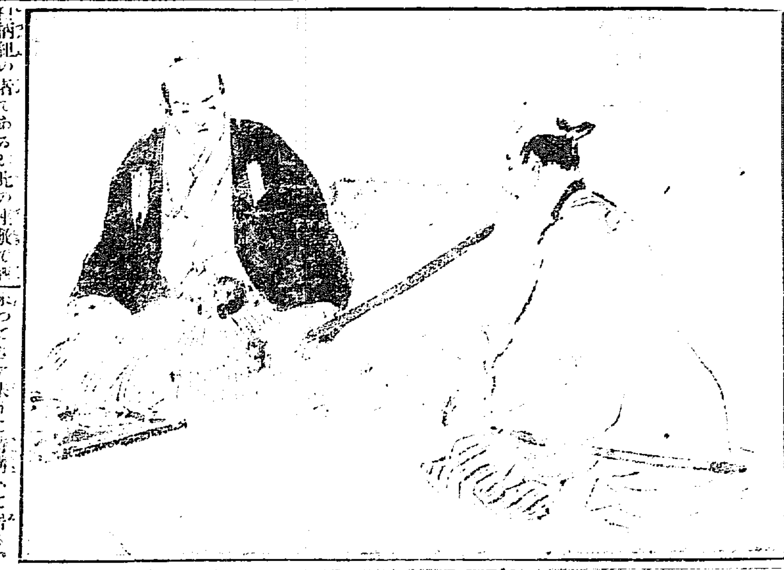
[illegible]同郡雙項面鴻川里崔東基の四名は共謀の上多額の金錢を詐取せんと企て昨年十二月二十八日頃金有權保存登記申請に登記僞の文書を僞造し及び鄭錫弼の印章を僞造押捺し群山檢事局に廻さる
◉京俱兜狩集合地變更　京城俱樂部に於いては十日南山城壁外に
◉鐵路小學校のお伽會　鐵路公立尋常高等小學校にては兒童に趣味を養成するため來る九日午後二時より同校教場に於いて御伽噺の講話者は職務のみに限り[illegible]
◉要塞は本月十七日午後十二時頃慶北道城郡北面西邊洞李炳翊宅に入り室前に積みありたる籾俵(八斗俵拾俵)を竊取せるを
◉曹谿寺(大和町三丁目)にては八日午後一時より婦人部會の講話[illegible]
▲搨めぐ　[illegible]
▲合論町一　▲川柳突一
▲物は付手の身から[illegible]
九日　十日　十一日　十二日　十三日　十四日
▲事總て表後一週間以内に到着又は同案▲發見通告者には五十錢書留券を呈す▲但何れも明記に限る▲宛名は京城日報讀者文藝係
豫報
▲京城温度　[illegible]

左甚五郎

第百六十二席

桃川如燕口演
浪上義三郎速記

兵藤平内は六兵衛を相手に快く酒を飲んで居りまする、隣り座敷でガヤ〳〵と云つて居る、ハヽア客でも來たことゝ思つて居ると、此の座敷を空けさせろ、強て執拗を張れば抓み出すなぞと大言を揮つて居るのは旗下の白柄組、怪しからん奴等だと少しく怒りを顯はしたといふのは、平内といふ人も餘り酒は宜くない、目の色を變へて向いて居りまする處へ入つて來たのは寛五郎兵衛、久永鋼十郎、五「ヤイ〳〵退がれ、汝々は天下の旗下…



…白柄組の者であるが此の座敷で酒を酌交したいと思ふ、貴様達は次の室へ退つて此の座敷を空けろ」六兵衛は瞬を潰して蒼くなつて居つたが堪忍が切れなくなつたか平内は其處へ出で 平「默れ、天下の旗下が何とした、白柄組が何うしたといふのだ、先刻より默つて聞いて居れば拙者のことを素浪人だの痩浪人だのと申すが、痩ても枯ても大髻頭を顫める兵藤平内、貴様達は蹴飛ばしても來て先客の我々を追拂ふといふことがあるか、此の座敷を借りて居れば拙者の住居と同じこと、其處へ無斷で入つて來ると云ふのは言語同斷な奴だ」五「何に、我々へ向つて不禮を申すと容赦はいたさんぞ」平「容赦はせんと云つて、何うするつもりだ」

五「何うするでは無い、邪魔で捨るのだ」平「貴様達の鈍刀で人が斬れるものか」五「斬れぬとあらば斬れ味を見せてくれやう」と旗下衆が何れも刀の柄に手を掛けて拔きかけた時に平内が 平「待て〳〵」五「命が惜しいか」平「命が惜しい譯では無い、此處で血の雨を降したなら當家の主人が迷惑をいたす故、表へ出て勝負をいたさう」五「[illegible]」さア表へ[illegible]ならんことを云ふ奴だ、一緒に來い」と皆な押取刀で此方へ[illegible]

來つてきて待構へて居る、兵藤平内は少しも騷がず六兵衛を始め女共を和めて置いて悠々と其の場へ來る 平「オヽ[illegible]の勝負を[illegible]いたす一人〳〵は面倒故に一度にかゝつて來い」五「怖いことを申す奴、其の舌の根を斷つてくれん」と寛五郎兵衛大刀を振冠つて斬込んで來る、平内は心得たりと一足退つて拔き拂つたのは先頃求めた村正の一刀、拔けば血を見なければ納らんといふ刀でございます、五郎兵衛の一刀を引拂つて横に拂つた一文字胴斬り、其處へ仆れる、續いてかゝつて來る久永鋼十郎を大袈裟に斬仆した、此の勢ひに流石の白柄組も少しく恐れたかのと見ゆ、ダヂ〳〵と後へ退つて

で見ゐる、松永小助といふ者が後方へ廻つて兩足を拂つた、心得たりと平内は飛上つて振向きさま斬り下す一刀、刀は名代の村正にして、斬り人は兵藤平内、故受けるも爲すも出來ればこそ、松永は身體二ツになつてバッサリ仆れる、此の勢ひに恐れた白柄組、命からがら〳〵逃げ行く樣子、後を見送つて平内が從容と笑ひ 平「コケ共め」[illegible]

[illegible]

とは思つたが何方の旗下、[illegible]相手は天下の旗下、[illegible]謝べる譯にはなりませんから、老中阿部豊後守正武へ申出ました、老中名年寄なれば此の一件を[illegible]ることが出來まする、阿部豊後守は平素旗下の横暴を憎んで居ります故此の事を將軍家へ申上いたしました。

二月九日九星　西十二月廿八日丁[illegible]

[illegible]

演藝案内

京城壽町 [illegible]座　電話五七八番
[illegible]

黃金館　電話二三六三七
[illegible]

京城本町 壽館　電話一〇五〇
[illegible]

有樂館
[illegible]

稻荷座
[illegible]

櫻井町 大正館　電話八七三
[illegible]

明治町二丁目 浪花館　電話二六〇番
京阪落語若手一座
[illegible]

ドンナに冷えてもスグ温まる
女のくすり　命の母
[illegible]
大邱 笹岡藥房

桃谷研究試驗所製
美顔ユーマー

▽ムダの無い、眞の美容液を御要求の方に
毛孔を開き白色美容の成分が吸ひ込まれるやうに出來てゐるユーマーをお薦致します

▽完全な美貌＝顏色と皮膚の美を御要求の方に
眞の美貌となり＝顏色を艶麗にキメを美く皮膚を軟かに滑かにする本品をお薦致ます

▽いつ迄も幸福なる美貌の永續を御要求の方に
お顏の地の荒れを防ぎ小皺を防いで潤々と美しさを保つ此眞の美容液をお薦致します

◇ますく信用厚く、賣行の盛大なる眞の美容液美顏ユーマーは又
最良のアレ止め
として折からの寒さ時候に御賞美を博して居ります!!

美顏化粧料 發賣元 桃谷順天館
東京市日本橋區本町四丁目（電話本局一六三六・一六二七・二三〇[illegible]）
東京市麹町區有樂町一丁目（電話新橋二六三九番）實驗部
大阪市西區靱南通二丁目（電話土佐堀六四七・六四八[illegible]）

大阪市西區新町通二丁目
本舖 田知本和三郎製
振替大阪二八番
各藥店に販賣す
東洋賣藥株式會社特約販賣店
京城府明治町二丁目四八
鯨間屋 香月商店
振替口座京城四八四六番

米國製 正十四金ペン 特殊創案 自働インキ含裝置「パインビジネスペン」
定價 金貳圓九拾五錢
進歩的經濟的文房具の需要日に加はり平常使用の「ペン」先に金製のものを使用するの最も適切なるは言を俟たず、而して此の金ペン先を裝するにイリヂュム、ボナイト製に到りては唯一の背後に裝置せしめて「インキ」を含ませ特殊創案の「パインビジネスペン」たる所以にして耐久力に富み數百の使用に耐ゆる[illegible]
各銀行、會社、官廳より御用命[illegible]
發賣元 京城日報社代理部
京城太平通一丁目 振替京城三〇〇番

汽罐汽機販賣廣告
[illegible]
商會 [illegible]田留[illegible]

京城日報

第五版　二月八日朝刊（朝夕刊併せて八頁）

遊支偶録

蘇峰生

（一）日本人支那を知らず

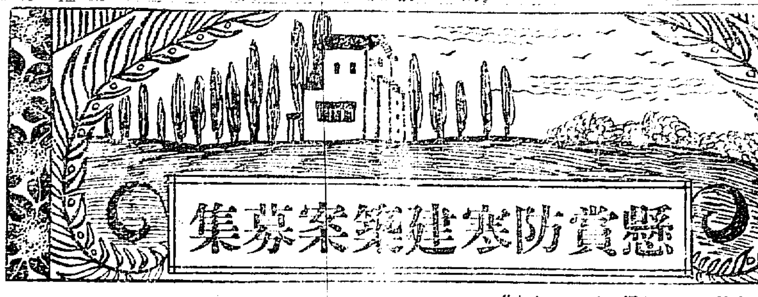
予は何れかと云へば、支那人の日本に關する智識の、不充分なるよりも、日本人の支那に關する智識の不充分なるを遺憾とす。日本人は支那を、當面の大問題と唱へながら、未だ支那其物に就て、何等の調査も、詮索も、研究も、考慮をも廻らし居る者多からず。斯くては折角の仕事も、所謂る手から口への間に合ひに過ぎざる可し。今日に於ても、支那の事を觀察するに、唯だ日本人の立場よりし、己を以て他を料る者多きは、上は國際的交渉の大より、下は社交的關係の小に到る迄、概ね然らざるはなし。而して其の結果の、予が前にも語りし如く、所謂る下戸に酒を強ふるが如き、不始末を來さしむるもの、果して幾許かある。

一口に同文同種とは申しながら、支那と日本とは、其の立國の根蒂を殊にし、其の國民の歴史的成立の徑路を同うせず。即ち支那には支那の流儀あり、日本には日本の流儀あり。如何に支那人が洛衣を著け、兵子帶を締めたりとて、それにて直に日本人と爲り得可らざるは、尚ほ吾人が高帽を頂き、フロック、コートを著けたりとて、直ちに歐米人たるを得ざるが如し。特に支那人は、世界に於ける最も古き人種の一にして、其の歴史も亦た最も古き歴史の一たり。歐洲は希臘、羅馬、中古、近古と、幾多の史的階段を經來れども、支那は三皇、五帝、二十四朝の歴史を、殆んど連續的に經過せり。要するに支那及び支那人は、世界の謎題也。吾人は斯る謎題に就ては、深甚の努力を要す。而も、尚ほ其の解決の容易ならざるを思ふ。然るに一切之を無視し、唯だ眼前に觸れられたる現象を捉へ、直ちに自己流儀の標準にて、之を判斷し去らんとす。其の見當外れも亦た宜べならずや。

戰後の海運 競爭に對する各國の準備（三）

米國商船運動の歴史を一瞥するに一七九〇年乃至一八六〇年代に於て異常なる發展を示したるも一八六〇年以後に入りて大なる退歩を來せるを見るなり而して其の盛衰は政府の保護政策の消長と其の歩を一にせるを知るなり一七八九年政府は始めて海運業の保護規定を制定せり當時米國貿易は頗る不利の地位にあり即ち米國商船の總噸數十二萬三千噸に過ぎずして輸出入の九割は之を外國船（内八割は英船）に依頼せざるを得ざりき▲然るに法令の保護次第に其の效を奏し一八〇〇年に至ては百萬噸の商船を擁し米國貿易額の九割は自國船に擧據する所となれり商船補助金制度と自國船に對する特惠稅、外國船に依て運搬さるゝ貨物に對する差別的關稅を包含せる航海保護規定は其の後益々所期の目的を遂行し十九世紀の中葉に入りては米國大洋汽船噸數二百五十萬噸を示すに至ると共に其の川湖及び沿岸航行を[illegible]米國商船業者は[illegible]に達し[illegible]の發達を見るに至りしも一八六〇年代に入りての後は漸く[illegible]米國海運界の隆盛も十九世紀中葉に至り農業者より其の保護に對する激烈なる反對運動現はれ遂に一八六二年保護法の撤廢を見るに至りて忽ち衰滅の悲運に會し多大の入口を有する米國にして戰前僅に一百萬噸を數ふるに過ぎざるに至れりされども其の川湖及び沿岸航行は尚ほ保護の恩惠に浴し外人の就航を許さざりしが故に同方面の船舶を加算するに於ては總數五百萬噸乃至六百萬噸に達し之に米國海軍を加へ漸くにして其の造船業を今日に維持するを得たり米國海運の衰退せる原因は其の保護法の撤廢に在る事前述の如くなるが之が爲め衰退を速かならしめし一原因あり其は造船材料として主要の部分を占むる木材は近來鐵道の使用盛となりたる結果供給の不足を告ぐるに至りたる[illegible]米國は多額の鐵及び石炭を產出[illegible]英國の如き近年[illegible]▲鐵產出地●石炭產出地●米國に於ては[illegible]の關係上普通海岸より四、五百哩の距離を隔つるが上鋼鐵所は石炭と鐵の產出地を去る奥地にあり且熟練工銀に乏しく而も其の勞銀至て高價なりしことも多くの鐵材を使用すべき造船業に不利なるは明かなり加ふるに保護政策に依て米國々内產業繁榮を極め資本と勞力は自ら其所に吸收せられ從て何等の保護に浴せざる大洋海運は一般企業者より重視せられざりしも亦斯業の不振を免れざりし一因と云ふ可しされば戰前に於ける米國大洋船は英國の一千八百萬噸獨逸の五百五十萬噸に對し僅に百萬噸にして米國外國貿易額の八分を運搬するに過ぎざるが如き慘狀を呈せしなり以上の如き狀態に激し海運振興の必要を絶叫するもの既に二十餘年來米國に現はれ商船同盟會を組織し▲要之が振興方法を議會に提出せしも常に其の容るゝ所とならずして止みたりき然るに前年來巴奈馬運河當局は完成せんとするに及び振興運動は初めて實際的政策となりて現はるゝに至り加ふるに今回の大戰は更に該運動に一大刺戟を與へ今や海運問題は米國政策の最重なるものと化せり（朝鮮銀行調査局調査）

懸賞防寒建築案募集



募集要旨

我社今回の防寒建築案募集に、住宅を主として計畫發表したるもの。特に中流階級の住宅を標準としたるは、相當の資力あり提案採用の實行者、比較的多數なる可きを豫期せるが爲めである。玆に應募者諸君の參考に資するが爲め、左に我社今次の募集要旨を摘載す。

◆建坪　四十坪乃至五十坪迄但し二階建設計の場合も延坪が此制限に[illegible]過せざる事

◆家族　夫婦老人一子供二女中一計七人程度の家族

◆提案　平面圖、正面圖、設計說明書、豫算書を具備す可し

◆工費　坪當り百圓內外とす

◆特案　特に防寒設備を施したる構造部分の詳細の圖面及說明書

◆寒度　京城≡平壤≡咸興地方に適當する程度の防寒構造

應募規定

[illegible]

懸賞

一等（一名）金百圓　二等（一名）金五十圓　三等（一名）金十圓宛

どうして　布施生譯（六十四）

[illegible]

[illegible]

十二月中輸入超過四千萬四千圓にて差引二百四十萬三千圓の出超を告げたり詳細左表の如し（東京）

[illegible]

輸出生糸市場は有志製絲家の手に依りて安値を抑制されつゝありしが何とも爲し難く既に[illegible]出現し千二百七十圓なる賣止値を[illegible]安値に[illegible]一般的[illegible]

本紙定價　一ヶ月金六十五錢　廣告料金　[illegible]　發行所　京城本町一丁目　京城日報社　電話[illegible]　發行兼編輯人　小川三之介　印刷人　[illegible]

實驗 化學工業

世界强國の覇權を掌握せんとせば化學工業を基礎とせる發明的實權を獲得するに有り

工學博士 西川博太郎先生　藥學博士 慶松勝左衛門先生　共編

本書の浩瀚なる紙質印刷其他諸物價暴騰の現時採算上增版は絕對に不可能也

全部完成　全二冊　總紙數參千貳百餘頁

發兌 化學工業發行所　滿鮮一手特約店 大阪屋號書店

胃腸最良藥

チケスチジ

二月十日より

雛人形陳列仕候

京城 三越呉服店

朝鮮彙報　二月號

口繪　朝鮮の鹽　地價綱要　在鄕軍人會　[illegible]

學校用机、腰掛、西洋家具、一手販賣　[illegible]

第五十三次　東海道

豫約募集　實費分本　前金不用

廣重畫現狀寫眞對照

豫約價金參圓五拾錢　定價四圓七拾五錢

東京淀橋町　東光園

質　大塚質店　京城明治町二丁目

戰慄す火災　多額の融通

善隣商業學校　生徒募集

旅行用具一切

朝鮮特産 ワングル製鞄　專賣品 柳製鞄　毛布一枚續　東京製鞄各種　防水布マント各種

鞄製造販賣　京城本町一丁目　高木旅行用具店

第四十回帝國議會（東京特電）

貴族院（七日）

▲韓貨法委員會

貴族院に於ける舊韓國貨幣に關する法律案委員會は七日午前十時開會委員長に近衛文麿公、副委員長に岡喜七郎氏を互選し引續き議事に入り白仁拓殖局長官、鈴木度支部長官提案の理由を説明し岡氏、東郷男等の質問あり鈴木長官之に答へ原案可決同十一時散會せり

▲共通法委員會

貴族院の共通法案委員會は七日午前十時開會徳川委員長以下委員十四名出席十二條以下逐條の質問を續行し富井政章氏「刑罰が内地と同一なりとせば所在地と犯罪地孰れにても可なりと説明ありしが法理上の研究如何」と云ふ所在地に依るが可ならずやと問ひ山田參事官「十三、十四兩條の規定に準據せば可なりと」答へ、次ぎに阪谷、岡野敬次郎、富井政章氏と山田、山内兩參事官、谷島法務局長との間に各條に亙り質疑應答あり高橋作衞氏より樺太土人に關する質問あり山田參事官、内地人と樺太土人との關係に就き家族的狀態は未だ戸籍を制定する域に達せずと答へ更に江木翼氏に憲法上に於ける關東都督府の地位に關し有松長官と數次問答あり岡野敬次郎氏より本問題は更らに政府に於て研究調査の上明答を與へられ度しと希望し未了の儘正午散會せり

衆議院（七日）

▲税案討論（夕刊の續）

六日增廢税に關する特別委員會に於て戰時利得税法に對する修正希望條件を可決するや直ちに所得税法中改正法律案の審議に移り三上氏、本員は大體に於て所得税の改正を是認せんとするものなるが猶第四條第三項第三號は現行法通りとし且つ現行法を拘束す可き勅令第一條第二項の規定を廢せられたし此の事に就ても亦政府の言明を得ん事を希望す、加藤政之助氏（憲政）本員は憲政會を代表して所得税法改正案以下增廢減税の全部を否認せんとす即ち今回政府が提案せる財政計畫は國防計畫充實の[illegible]

[illegible]

▲本會議

七日の衆議院は增廢減税案決定の爲め議場内外の形勢自ら緊張し[illegible]

▽勝田藏相

[illegible]

▽早速氏

[illegible]

▽元田肇氏

政府が本會議に提案せる計畫の重なるものは國防の充實と其財源の補充及び税制整理なり[illegible]

▽川原茂輔氏（政友）

[illegible]

▽早速整爾氏（憲政）

[illegible]

◎獨逸罷業益擴大

[illegible]

◎時局と朝鮮甜菜

操業開始は一年延期した　岡村朝鮮精糖會社重役の談

[illegible]

▲種子は露國より

[illegible]

▲ボイラー禁輸

[illegible]

▲採算の基礎

[illegible]

◎鮮米の聲價問題

何故に南浦米は優秀なるか　足立東拓殖産課長談

[illegible]

▲畔山産出

[illegible]

▲移出米檢

[illegible]

◎岡田榮氏當選

[illegible]

◎川上理事歸る

[illegible]

◎阿部氏赴任期

滿洲、鮮銀の阿部總支配人に榮轉せし鮮銀の阿部太郎氏は來る十三日午後九時四十分南大門驛發列車にて赴任の筈なるが家族は當分尚ほ在京する由

人事消息

- ▲梓本誠氏（慶北道第二部長）七日夜入京
- ▲伊藤忠三氏（共益社重役）同上
- ▲山崎英夫氏（瑞龍拓殖公司幹部）同上
- ▲廣瀬茂吉氏（朝鮮安達鑛山主任）同上
- ▲三浦清平氏（三井金剛鐵山主任）同上
- ▲井上隣一氏（朝鮮大產組合成南部長）同上
- ▲山形勝吉氏（三菱京城支店長）同天眞樓へ
- ▲神原太吉氏（鎭南浦中村組支配人）同上
- ▲星田正雄氏（鑛業家）同上
- ▲臼井水城氏（辯護士）七日入京

◎軍事會議成功

▽非常なる熱誠を以て迎へらる

ウエルサイユに於ける聯合最高軍事會議は獨逸宰相ヘルトリング氏をして聯合國側の講和條件に服從せしむ可しと云ふに同意せる事及び差迫りたる敵の攻擊に對して聯合軍の協同一致を得たる旨は同會議の成功として非常なる熱誠を以て迎へられたり（倫敦電報）

◎馮總統謝罪布告

六日馮總統は天下に向つて罪を謝する旨の長文の布告を發せり（北京電報）

[illegible]す、陳光遠の陸軍中將を褫奪し雖督軍として留職し將來の功を[illegible]

◎澱粉依然暴落

[illegible]

◎放火

[illegible]

破天荒廉價提供　御申込次第型録呈進
陸海軍御用
○陸軍劍術教範制式
○銃劍術防具
○警察、學校御用
○擊劍術防具
軍用機械（名）會社

資本金　二、〇〇〇、〇〇〇圓
積立金　二二、〇〇〇、〇〇〇圓
諸預金　一八八、〇〇〇、〇〇〇圓
株式會社　第一銀行支店
支配人　西村道彦
京城府本町二丁目（振替貯金京城二一番）

大正館　電話八七三
第二回　鐵の爪
新派　捨小舟　四卷
舊劇　細川血達磨　四卷
世界一喜劇俳優　チヤプリンの闘牛

新學期會員大募集
中學講義錄　大評判の
大日本模範中學會

生徒募集
土木科學年　拾八名
電氣科學年　貳拾名
採鑛科學年　廿五名
建築科學年　拾貳名
機械科學年　廿五名
一入學者資格
一出願期日
一出願手續
一入學試驗
一受驗心得
南滿洲工業學校

白鶴　天下一品　本酒店
古着古洋服　江頭衣服店
田村質店
京日案內
測量手入用
代診生募集
ラヂユーム
年金恩給
鑛物各種分析　田部分析所
車輪板ロクロー　本明雜木店
內地人乳母入用
貸家　旋高旅館
乳母入用　錦織

◎南方督軍を處分

…段派の前に屈服し居れり（北京特電）

六日總統令を以つて譚浩明、王金鏡の勳位勳章を褫奪し上將銜及び總司令を取消し、周壁階を懲戒委員會に交附するの命令出でたり（北京特電）

◎機關車埋沒 中越線の山崩

七日朝中越線岩崎海岸に山崩れあり汽車脫線し機關車の前半部土中に埋まり…

安郡同面同里…家の牛舍に放火し同舍及び…棟を燒失せしめ白浪と逃げ出したるを遂に長水面先…の手に捕獲さる

住宅問題

▼理想的の防火の設備

市街地の建築物は完全なる堺壁が必要だ

京畿道警務部消防主任　小熊警部談

防火壁と共に防火上重要なるものは堺壁である、何處の長屋でも堺壁はあるが多くは天井以上に突出してないため長屋全部に天井が通じて居る、又床下も其の通りで一度火を發すると火は天井や床下を這つて見る見る全長屋の屋根裏床下から燃え上るやうな事があつて消防隊をして意外の感を抱かしめる事があるが斯る場合堺壁さへ完全であつたならば…面は恰も通風口の如くなつて火を移すから外部からの注水も何等効力がない其他…

▽延燒を防ぐ上に有効である

京城の長屋には屋切のあるものは殆んど絶無であるが甚だ危險で出火の際一戸の燒失で濟むものが延燒を招いたり、火の手の廻りが早いため逃場に窮して燒死ぬやうな事も珍らしくない要するに人家稠密した市街地に於ける建築物は完全なる堺壁を設ける事を必要條件としなければならぬと思ふ、更らに構造上注意を要するは戸及び障子などを堅固にして置き火災に當つて避難以外外部から容易に破壞取外しの出來ぬやうにして欲しい何故ならば火の起つた室を密閉して置けば其の

▽室内は火自ら不燃瓦斯を發生

して燃燒を妨げ得る許りでなく消防上から言へば一枚の障子一枚の襖と雖も防火上有力で此れが爲め火勢が鬱塞して消防手の活動を幾分自由ならしむる事が出來るのである、風窓は空氣の疎通と共に火焔を吸取し易いから燃質物は絶對的に外部に露出してはならない明治三十五年東京帝大の造船學教室が燒けた際二十間隔れた木骨煉瓦の風窓が火を引いて延燒した實例もある洋風建築には多くペンキを塗つてあるが往年神田和泉町某病院の内部がペンキ塗であつた爲め

▽奧の藥室から發火するや否や

火は廊下のペンキを舐めて瞬く間に全建築に燃え擴がり遂ひに二十餘人の患者を燒殺した事もあつたから成る可くペンキ塗を避けたが宜からう又木摺建築は經濟で立派に見ゆるが一朝火災起るや內…

▽二階のものは逃げ場に窮して燒死んだ事などもあつた又灰の棄場は建築物に接觸して設備せず穴の中に埋めるやうにしたい、混突は煙道を短かくする時は煽りが多いから…

◎龍山鐵道病院全燒

階下消毒室から發火　患者は無事に避難す　燃燒約三時間に及び損害夥し

七日午後五時三十分龍山漢江通り龍山鐵道病院階下婦人科瓦斯消毒室より出火して同病院本館全部を烏有に歸せしめし椿事あり

▲發火の原因 については目下取調べ中に屬するを以てその眞相定かならざれど、同所內壁付けの瓦斯消毒器の火が附近の壁板に燃え移りたるものらしく折惡しく室內には一人も居らざりしところより火は天井の裏に入りて一面に擴がれるものゝ如く、婦人科室の上なる第十七號病室に臥床中なりし入院患者の田中某が床板が熱し室內全體異常に暖まり來りしより不審を抱きつゝ斯と醫員に告げ前記の婦人科室を檢めしに

▲白煙室内に 罩めて唯事ならずと見るより直ちに消防隊に急報すると同時に附近なる龍山憲兵分隊よりは居合せたる矢野隊長以下分隊員全部出動し

▲醫員に應援 して階上各…

▲一部を燒拔 きて天井裏…

▲火焔の海と 化し居れる樑を傳うて天井裏一面は凄まじきことゝて如何とも手を下す能はざるのみならず火焔が現はれざる爲め唯打ち騷ぐばかりにて發火の箇所をさへ知るに苦しむ有樣なりしが漸くにして階上なる床の一部を打碎きしにこの時まで天井裏に渦まき居りし猛火は非常なる勢ひにて階上に現はれ來れり

▽消防困難 益々燃え盛かる

之れより先き急を聞きて驅つけ來れる新龍山の兩消防組はこれを見るや直ちに消火に努めしも、憾むらくは同病院使用の水道は鐵道水源地よりの給水にかゝるものにして水量十分ならず、消火栓の設備も完全ならざりしをとて…

▽見舞客の山 雜沓を極はむ

鐵道病院出火の報傳はるや…一齊に非常喇叭を以て急を報せしと同所附近に在る…入院患者の關係者見舞客等一時に驅けつけ來り雜沓を極めしも憲兵の制止にて…

▽患者は無事で何よりです

佐々木院長談

炎々として燃えしきる火焔を眺め…醫員は鎮火と同時に避難者の收容所を見舞ひたるも全く無事にて佐々木院長夫人なども詰め切りにて鎮火後の始末を爲し居りたり

▲注水意の如 くならず、斯る間にも火勢はますます猛烈にして天井裏を旋轉して黒煙を吐きつゝ時に家根庇の間より紅蓮を現はすに過ぎざりしため憲兵消防員必死の活動も

▲其甲斐なく 遂に建物全部を包むに至り…

▲若干の兵士 …

▽醫療器械全滅　消防手負傷

…目下取調中にて損害額は判明せざるも建物…萬圓醫療器械…萬…

つゝ同員を督して奔走しつゝある同病院佐々木四方忠氏に刺を通じて見舞を述ぶれば「誠に申譯のない事を致しました、入院患者の方には實にお氣の毒でした、出火と同時にお宅の近い方は自宅へ、其他は事務所と倶樂部へそれぞれ避難して戴きました…」

●歳暮の朝鮮人店に陳べた品々

◎全村移轉

◎岐阜の尾張…

◎瑞典人捕はる

◎淋しい陽氣、商況は沈滞

◎安東…　滿洲の奧は…

學校めぐり

▽女子技藝學校

本科 技藝・刺繡部　別科 技藝・刺繡部　何人でも入學自由

南大門內消防隊に隣つて京城女子技藝學校…本科は三年、補習科の方は本科卒業生にして尚研究したい者に一年…手藝に重きを置いて…

◎京仁地方は

微雨、元山…

五日朝琉球方面に現はれた低氣壓は、六日に至つてそろそろ北方に進みつゝあるが、其氣壓は五日あたりから可成り優勢となりて漸次東方に擴張して北滿洲方面は非常に北の風強く六日終日曇りがちの天氣であつたが、その他北鮮は平壤地方二三の地は降雨を報じた、併し午後から京城は一時的の現象で直ぐに歇んだのである七日朝（午前六時）下關方面は少雨を報じたが鮮內各地とも快晴に復し京城は攝氏氷點下一度一で年に比して

▲十度弱も暖かであつた 而して天候の恢復と共に何時なれば寒くならなければならぬのであるが何故朝鮮に寒氣が及ばぬかと云ふに近頃の高氣壓は例年よりも著しく北の方に偏在してゐるのと且つ薄弱であるとの兩方であるから鮮は

▲コールドウエブ（寒波）の影響を受けぬからである。尤も北滿から奧の方へかけての寒氣は變らずの狀態で現に七日朝ハルビンでは攝氏氷點下二十六度であつたから同日の最低氣温は零下…

▲袷も春日和 で…

◎技藝展覽會

京城女子技藝學校にては來る十三日十四日兩日…生徒の成績品展覽會を開催し十三日は午後一時より四時まで十四日は午前十時より午後四時まで一般の觀覽に供すべしと

◎暮の氣分　漲つた鮮人町

日本人の仕度に續いて鮮人町にも陽暦の暮も押迫つて來た。暦の暮に他人の忙しいのを外に見て呑氣に構へてゐた朝鮮人の顏にもこの頃はいくらか

▣緊張した氣分 が漂つて路を歩くにも小走りに走つてゆく樣な調子、門松、注連飾こそなけれ年末だけに…

▲油鞋の賣買に …

◎古物商の取締

大正六年下半期に於ける京畿道管內古物商取締に依り檢擧したる犯罪件數を聞くに犯罪百八十三件檢擧人員百十九人にして贓物發見點數四百十六件此價額千百七十一圓五十錢に達せりと

◎忘機吟社例會

忘機吟社二月例會は來る十日の日曜日午後一時より大和町三丁目曹谿寺に於て開催す當日の席上課題は左の如し

一、春雨　一、寄友在羈陀

◎仁川岡山縣人會

仁川岡山縣人會にては來る十一日午後五時より仁川仲町…にて縣人懇親會を催すに付出席希望者は仁川…に申込むべしと

謝近火御見舞

龍山鐵道構內
岩本 運送…
花園精肉部
日東社
富井 支店
富木久三郎
大草松次郎
太田運送店
太田黑今吉
龜屋雜貨店
田口商店
中村…
中崎…
村田卯一
山田東京堂
丸三 酒場
有田…
進和…
平山…
樋口寫眞館

昨夕龍山鐵道病院出火の際は早速御馳付被下御盡力相煩し難有奉存候混雜中御尊名御伺漏れ有之哉も難計不取敢以紙上御禮申上候 敬具
大正七年二月八日
南滿洲鐵道株式會社
京城管理局

舊正月 三巴商會商品切手 賣出
京城黃金町一丁目 三巴 京城支店

新刊 朝鮮貨幣史 乾
定價九十錢 送料二錢
大阪造幣局技師 甲賀博士著
考證斬新…
京城日報社代理部

最新刊
大阪屋號書店

瓦 値上廣告
並瓦 四錢五厘
諸物價騰貴に付上記の通り値上仕候也
大正七年二月
京畿製瓦組合

白檀油代用藥
ゴノサルビン
優秀卓絶價格低廉
白檀油大暴騰
效果的確にして消化器障碍なく純內國產なれば價格從て低廉也
發賣元 大阪市外中津町光立寺 友製藥合名會社

內科 小兒科
呼吸器病 胃腸病 喘息 リユマチス
京城本町二丁目四十五番地 電話二八八〇番
山田病院 院主 山田萬作

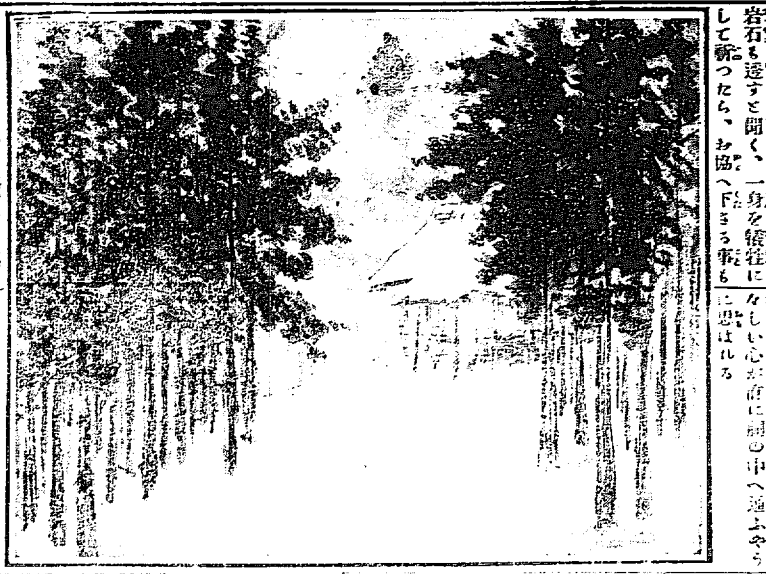
周易 高岡良知

櫻御殿

第百四十五回 大阪殿の家主人

殘月（三）

されど藥の験は見えなかつた、夜に入つてから更に甚しく苦悶を增して、虛空を摑むやうにする、湯藥は喫ふ物も咽喉に通らぬほど苦勞する

「女の心底を見せるのは今である有村樣はお心强う仰せ遊ばすが、情に及ぶ物は無い、有村樣に離れては、わたしの[illegible]所も無い、お藥に効驗なくば、實心でお治し申す、女の思ふ一念は岩石も透すと聞く、一身を犧牲にして祈つたら、お協へ下さる事もあらう、彼のお方の御病氣が治したさに、身を捨て、願を立てたをお聞き遊ばしたら、少しは不憫と思召さう、此の身は此のまゝ死ぬるとも、有村樣の御病氣が全快すれば本望ぢや、現世の緣は薄くとも、未來の御緣を樂みに、一心籠めて願掛けせう、之れがわたしの心を通はす只一筋の道である、さうぢや、只一筋の誠である

彼女は斯う決心して、丑滿の鐘の磬鐃なと鳴り響くとき、そつと家を忍び出た、この邊に鎭守の森でもありはせぬかと思ふからであつた

秋風は滲々と山の樹を吹き渡る月は消み空は晴れて、何處へ行くとも知れぬ雁の一行が雲間を翔る桐島は祠を辭して彼方此方した見ると、峠の降り道に、小やかな祠がある、こんもりとした森に夜の鶴が淋しく鳴く、鳥居の陰から覗くと、廣庭に古びた館が人の如く搖いで居る

「佛神さまかは知らぬが、一心をもつて祈つたら納受のない事はおろまい、いで〳〵」と云ひながら進み入る、間を流るいさゝめた小川の水に掬んで、手を洗ひ口を漱ぎ、[illegible]の靈氣も見えない、そうして己身を捨てゝ人を助けやうとするなしい心[illegible]へ通ふやうに思はれる

桐島はその清い心だ、堅固な覺悟とをもつて、拜殿の前へ進んだ月は千木の上に落ちて、餘光直に頭を照らす

「[illegible]樣へ下さりませ、わたくしの命をもつて、有村樣のお命にお替へ下さりませ、一人の父にも捨てられ樣にも生き別れ、現世に生きて何の樂しみもない身でござります、此の命が用に立つて有村樣の御病氣が本復すれば、これに越した歡びはござりません、斯程までに思ひ詰めた、わたしの心を不憫と思召しませ、そうして顯著な御利益を下し置かれませ」

鈴を叛いたやうな月の前に坐つて、有らん限りの眞心を籠めて祈月が皮膚を透し、肉を透して、骨の底へ滲み入る時、堪へ難い戰慄を禁めることが能きなかつた

雨も斯うする中に、月は西へ傾いたが、桐島は元の庭に平伏したまゝであつた、朝霧を犯して通る驛馬の鈴が、遠く近く鳴り響いて天はほの〴〵明けかけたが、桐島はそれに氣付きもなく祈願を籠めたする中に、はつきりと天が明ける、頭の上で消魂しく鷄の鳴くのに驚いて、夢から覺めたやうに桐島は我に返つた、露と霧とで、びツしより衣服が濡れて居る

一歩、一歩[illegible]あらう、少しは宜しい方か、それとも未だ驗が見えぬか、異夜中から姿を見せぬので、どんなにか御心配なすつて在らつしやるであらう」

桐島は一心を籠めた祈願が、病人の上に多少でも驗があつたか何うか少しも早く樣子が見たさに、急いで有村家へ歸つて見た

毛皮なめし並に仕立
獸類製調進羽根布團製造修理 毛皮類買入
京城本町二丁目 貿易商 將元商行

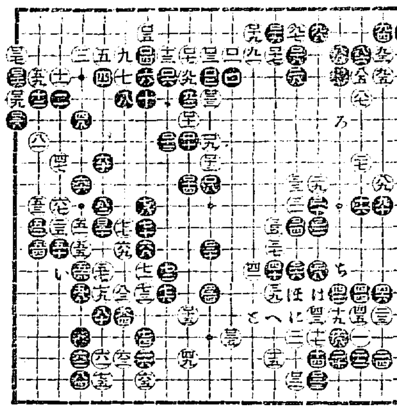
白銀歌壇

冬季雜詠 川晄
二三戸深う住む一門の冬木哉 同
花生木の緋滲める冬木かな 同
渡し場の冬木に鷺す水棹哉 同
空ら風の痛み叫びや冬木立 同
倚り添うて肌暖き冬木かな 同
顛に動かぬ石や冬木立 同
石に落ち冷たく消えし火の粉哉 同
物探す土藏に寒き灯しかな 水
硝子障子に庭樹の影や冬の蠅 同
壁に古りし袈裟や多の蠅 同
里に照らす夕空の鴨の羽音哉 有
雪に照る伸立塢の焚火哉 同
屋根の庇に垂れて久しき氷柱哉 竹
後族屋根に寒う鳴く霜の[illegible]哉 同
風が舞めく閨の裏戶かな 同

常風

碁戰

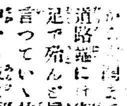
第十番碁 第五局(完)
三段 山平壽氏　二子 大久保雅彥氏



講評

△黑廿六は(い)に斜走して敵軍に迫るか然らずんば(ろ)に縮りて打つ方確實なり△黑二十八は三十に飛ぶ可しより二十九と掬られて外闘を塗られたるのみか後手を曳いて白を八へ四十七の大塲を占領せしめたるは策の得たるものに非ず△黑三十八は四十三に切つて打つ手あり其時白は(は)にありて黑(に)白(ほ)黑(へ)白三十九黑四十二白四十四黑(と)白(ち)となりて振替りさなる其利害得失は孰れを是とし孰れを非とす可きかは容易に判定し難しと雖も亦一の趣向たることは疑ひなし▲黑五十の頂手は如何あ可きか寧ろ(三)に詰めて打つ方黑軍の勢力範圍廣きに似たり△白五十五の曲りは考へものなり▲黑六十八は六十九に打つ可し▲白九十二わるし[十八]に打つ可し九十九と打ちしため[二][四]六と腰を[illegible]せられ黑をして中原の空地に[八]さ機先を制するに至らしめたる[一]目の損失なり然れども全局の上に於ては未だ全く白軍の不利に歸したる非ずして勝敗猶ほ容易に判ず可からざるものありしに惜手於て深甚の注意を缺きたるが爲めに終局五目の敗に歸したるは最も微細の考慮を拂はざりし罪なり百三十手以下省略

讀者の領分



△總督府醫院の正門から[illegible]道路端に街路が不足で殆んど異ッ闇さ言つていゝ位なので明るい電車の中から或は病室から急に表へ出た者は頗る面喰はざるを得ない夜の見舞客にとつては迷惑だ(見舞者)△京城では一時各社突塲で賭手が流行して心ある人をして眉を顰めさせたが昨今それが大分無くなつたので眞面目な好球家は喜んでゐるが賭手の常習犯とも言ふべき連中は隨突きは撞かれないとか言つて不平を言ふ者もあるさうだ睡藥すべき手合である(四王子)△此頃の温い處を試みに作つた俳句お笑ひ草まで御覧に入れ申候「打晴れて障子も白き春日影」「春の日や庭に雀の沐浴び」以上(滿花生)

洋料理すき燒 カフエータイガー

雪解集

五の日十の日會 浮碧 櫻

切符など窓口の標卷の我顏見ゆる
はや布團の下に[illegible]
われ豆を撒きしが撒いてみれば幼なき
二階に上れば上の節分夜が更け
セコンドの音を夜あけて雪解くる
男立ちまばりて馬がたかれて雪解 華
雄鶏すくと土を擇み寒椿落ちたり
雪解路にかかる汽車は間に合ひたる
わが心のごとく水鳥は水をはなれて飛べり 鳥
和尚の白足袋の後ろに隨ひ 堂
雪解ぬかるみ電車にのる我搖
汝を措いて火鉢一人に引く我
窓に新聞が挿まつたまま多の午過る
玄關から襖一枚の小燈に居る
頭卷ぼにはお子抱き上げたるや
疑物語りやみ鼠凍てゝあらむ 犴

下旬對支貿易

出超二百四十萬

[illegible]

生絲益々軟調

物は漸增の趨勢なると相俟ちて漸次軟調の度を加へ[illegible]ばれたり此外塲進品も安値商況の[illegible]細物の[illegible]値を告げたる者あり甲州准優等[illegible]

獨逸罷業眞相

[illegible]と妥協するの方針を採るべく社會黨幹部は勞働者側を支持すべしと[illegible]歩を見越し罷工運動を自然的に消滅せしむる[illegible]平和談判に於ける露國側の[illegible]

軍隊毛布

元秋來本社がロシア軍隊防寒用毛布の約束運を提供せしに非常成好に付御注文全部に應じ兼候に付更に五千組提供し茶鼠大判二枚綴さ(無疵)一組原系値段なる二圓九十五錢で御注文に應ず至急ハガキで申込あれ受付順に引換郵便で發送す

東京織物仲繼店

品質第一
誠實第一
實行第一

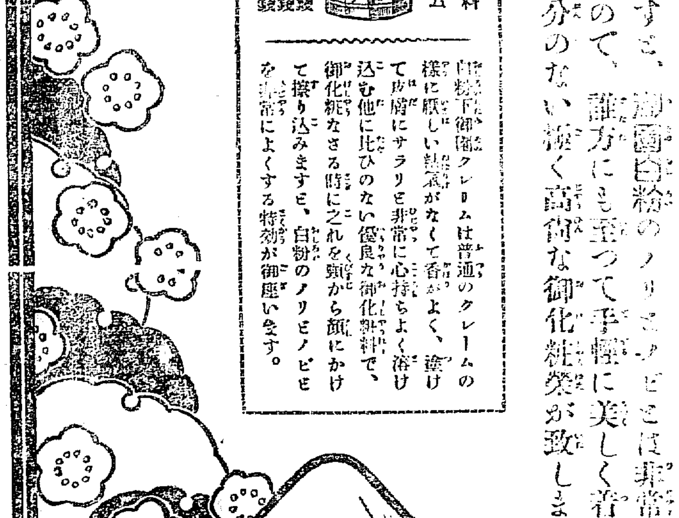
キッコーウリ
最上醬油
釀造元仁川港
日本醬油株式會社
京城出張所
京城大平通二丁目電話二四五番

梅見月に麗しい
床しき御園化粧

御代の惠風に先立ちて床しい梅が香のたち迷ふ二月は未だ〳〵寒氣が酸しく兎角皮膚が荒れ勝ちですから朝夕の洗面後また入浴後には必ずよく皮膚の荒れを防ぎ肌理を細かく滑らかにする御化粧水御園四季の花を塗け、御化粧なさる時には白粉のノリとノビとを非常によくする白粉下御園クリームをお塗けになつて其上に

御料 御園白粉

をお粧遊ばすと、御園白粉のノリとノビとは非常によくなりますので、誰方にも至つて手輕に美しく齊き、何んとも申分のない輝く高尙な御化粧が致します



洋風化粧料 御園クレーム
定價 金十錢 金二十錢 金五十錢

白粉下御園クレームは普通のクレームの樣に粘しい油氣がなくて香がよく、塗けて皮膚にサラリと非常に心持ちよく溶け込む他に比ひのない優良な御化粧料で、御化粧なさる時に之れを頸から顏にかけて擦り込みますと、白粉のノリとノビとを非常によくする特効が御座います。

(878)

御料 御園白粉本舖 伊東胡蝶園
御料 御園白粉發賣元 丸見屋商店

百圓 進呈 りん病 ばい毒
帝國醫科大學
百圓 進呈
にせ物に[illegible]
大阪有田ドラッグ商會藥舖本部
京城南大門外停車場通 ドラッグ商會
京城黃金町 ドラッグ商會
大邱 ドラッグ商會
他の薬店に販賣を不許
詳細は本月一日の本紙を御覽
南大門外停車場通 大阪 ドラッグ 京城

間島自動車發着時刻
京城自動車 金泉支部

元山出帆 三陟 蔚山 浦項 鬱陵
元山出帆廣告

釜山出帆廣告
木浦 濟州 統營 麗水 順天

三共同汽船 仁川出帆
芝罘 大連行
三共同丸
仁川代理店 野口商會

大阪商船株式會社 汽船出帆廣告
仁川出帆 大阪行 安東丸 安東 大連行 鎭南浦行 木浦 群山 釜山

朝鮮郵船 出帆
元山より北鮮行
京城丸 成鏡丸 第二鹽運丸
釜山出張所 元山出張所 仁川港代理店 木浦港代理店 堀回漕部 山野回漕部 松原運送店